

平成 29 年度第 1 回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録

- 1 期日・場所** 平成 29 年 9 月 7 日 (木) 10:00~12:00
兵庫県立ひょうご女性交流館 「501」
〒650-0011 神戸市中央区下山手通 4 丁目 18-1
- 2 出席者**
- | | | | | |
|-----------|---------|------|------|------|
| (委員 11 名) | 山口委員 | 平野委員 | 倉 委員 | 吉矢委員 |
| | 小山委員 | 小林委員 | 鷗木委員 | 増田委員 |
| | 窪田委員 | 陳委員 | 石角委員 | |
| | 欠席：平川委員 | 尾山委員 | 廣瀬委員 | 三木委員 |
- (幹事 12 名)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| ○高永幹事 | ○市村幹事 | 松下幹事 | 羽原幹事 |
| 八木幹事 | 成田幹事 | ○西田幹事 | ○塚本幹事 |
| ○土屋幹事 | 升川幹事 | 長島幹事 | |
- 山根スポーツ振興課参事 (陪席)
住本兵庫県体育協会事務局長 (陪席) (○印は代理出席)
- 欠席：清瀬幹事
- (教育委員会) 高井教育長
- (事務局) 川崎副課長 榊副課長 岡本主任指導主事兼主幹
長谷川主任指導主事 坪田主任指導主事
- 3 開会あいさつ** 高井教育長
- 4 委員・幹事紹介** 名簿順による委員自己紹介及び幹事紹介
- 5 会長選出** 兵庫県スポーツ推進審議会規則第 2 条 2 項の規定に基づき、互選により会長を選出。全員一致で山口委員が会長に承認された。
- 6 署名委員の指名** 署名委員は、会長の指名により、吉矢委員、小山委員に決定
- 7 前回議事録の報告**
平成 28 年度第 2 回スポーツ推進審議会における報告事項 (「平成 29 年度の事業概要について」) 及び審議事項 (「平成 29 年度スポーツ振興団体に交付する補助金について」、「兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について」) について川崎副課長が説明し、承認された。
- 8 報告事項**
- (1) 平成 29 年度の事業概要について
- ① スポーツ振興課に関する事業概要について、長島スポーツ振興課長が報告した。
 - ② 体育保健課に関する事業概要について、升川体育保健課長が報告した。
 - ③ 障害者支援課に関する事業概要について、羽原障害者支援課長が報告した。

(2) 「日本スポーツマスターズ 2017 兵庫大会」について

榑副課長より、詳細を報告した。

(3) 「第 2 期スポーツ基本計画」について

川崎副課長より、詳細を報告した。

9 審議事項

兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について

川崎副課長より、兵庫県スポーツ推進計画の基本計画及び実施計画について説明するとともに、26～28 年度の実績値から、達成状況を示し、各委員からは、有効な手立てについて専門的なご意見をいただいた。

10 その他の事項

■ 委員の主な意見及び事務局の説明

(1) 「報告事項(2) 日本スポーツマスターズ 2017 兵庫大会について」

【山口委員】

○ 参加における選手の費用負担はどうなっているのか。

【榑スポーツ振興課副課長】

○ 選手実費による参加となる。

(2) 「報告事項(3) 第 2 期スポーツ基本計画について」

【平野委員】

○ スポーツをする時間を持ちたいと思う中学生は、現在 58%いると考えてよいのか。

【川崎スポーツ振興課副課長】

○ 現状の数値である。

【石角委員】

○ スポーツ実施率が 42%であるが、どのように集計されたのか。

【山口委員】

○ これまでは内閣府が体力・スポーツに関する世論調査を 3 年おきにやっていた。スポーツ庁ができ、昨年の秋に新しいスポーツ実施等に関する世論調査がスタートした。今はウェブ入力になっているが、その中の質問項目にスポーツ実施率に関して、週 3 回以上や週 1 回以上などあり、それを一緒にして、合計したのが最新で 42%となっている。

(3) 「審議事項 兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について」

【1 スポーツをする子どもの増加について】

【平野委員】

○ 第 2 期スポーツ基本計画で、中学生がスポーツをしたい現状が 58%とあるが、大学生を教えていると、現在の子供たちを取り巻く環境を考えたとき、目標値を掲げても、子どもたちが動かない現状がある。例えばこの間、女子高校生の体組

成をはかったところ、非常に筋力がないことをその学生が知り、運動が必要であることや、食に気をつけないといけないということに気づかせることができた。そういう自分の体の可視化を大学と連携し、学校単位で行ってはどうか。

【升川体育保健課長】

- 体の可視化、数値を具体的に児童生徒が理解できる能力、そういう指導が必要という意見、非常にありがたいと思う。特に女子については、高校生段階になると、運動実施時間が少なくなる。私どももいろんな意見を踏まえ、部活動の中でも特に競技性が高くない、ヨガやピラティスを実施する高等学校3校を今モデル校として、外部指導者の方に来ていただき実施することとしている。競技一辺倒ではなく、自分の体に気づきを与えられるような場の設定も重要と考える。

【倉委員】

- 幼稚園教育も学校教育であるから、小学校だけでなく幼児期の運動についての働きかけをどうするのか、工夫をお願いしたい。運動は小学校からよりも、幼児期が非常に重要であることを理解する必要がある。

【升川体育保健課長】

- 小学校の教員を対象に県内5地区で実施している指導者講習会へ保育園、こども園、幼稚園の先生方も対象にしたところ、今年、淡路では非常にたくさんの先生方が、熱心に受講していただいたという報告をいただいている。徐々にではあるが、運動遊びから体力向上につながっていくことを幼稚園の先生方にも十分啓発していきたいと思っている。

【小山委員】

- スポーツ推進委員が各市町で取り組んでいる1つの事例に、親子運動遊びという競技をよく取り入れて、イベントを行っている。親子で運動遊びをする機会をつくってやることも、我々の大切な仕事かと思って、今進めている。

【山口委員】

- 2012年に各自治体で策定されたスポーツ基本計画の中間見直しで、現在行われており、その中に幼児期という用語を計画内に入れる自治体がある。今まで幼児期が、余り出てなかったが、重要ポイントなので、何らかの形で入れることもこれから必要と感じている。

【増田委員】

- 特別支援学校では、子どもの肥満の問題をよく聞くが、それは運動する環境が整っていないと言われる。特別支援学校の子どもの運動実施率はどうか教えてほしい。

【升川体育保健課長】

- 全国の体力・運動能力調査では、特別支援学校の小学部、中等部でも対象になっているが、学校での指導内容について、きちっと把握ができていないのが現状である。競技内容については特別支援学校で実施し、テストができる児童生徒について、結果を国に報告している状況である。

【窪田委員】

- 中学生のスポーツをする時間であるが、私どもの学校で見たら、部活動加入率が90%を超えており、社会体育も含めると95%近く、その中で運動部の生徒は8割近くで、運動に大変親しんでいて、田舎の学校としてクリアできているのかと思う。ただ、平野委員がおっしゃった見える化については、スポーツ体力テストの数値だけで、自分の体がどういう状況なのか捉える機会がない。今年、柔道部の生徒が全国大会に出場した。食事管理を通して身体づくりを顧問、家庭と一体になって行ったところ、よい結果が得られたということもあるので、ぜひ子どもたちが身近に考えられる機会を与えていただければと思う。

【2 成人のスポーツ実施者の増加について】

【山口委員】

- 今、全国で総合型クラブが3,500くらいあり、兵庫県内で総合型クラブであるスポーツクラブ21は782あって、全国ではナンバーワンである。しかし、法人格を持っているのはわずか2つしかない。実は47都道府県の中のワーストである。大事なものは持続可能なクラブである。

そのため、例えば法人格を持ってNPOや一般社団など、公益性のある団体として県から認められると、市町より事業が受託でき、収入を得ることができる。ただ過去10年ぐらい、いろんな統合などをやってきたが、なかなか法人格をとるところが増えない。法人格をとり、3種目以上あって、クラブマネジャー、アシスタントなどを持つと、スポーツ振興センターのtoto助成を受けられるので、こういったところを進めていくようにしないといけない。

法人格取得は難しくないなので、例えば県の担当者を集めて、説明会を開催するとよい。法人格を取得してtoto助成をもらおうと、マネジャーとアシスタントマネジャーの雇用費用や専門職として位置づけられるので、ぜひそういう方向に進めていただきたい。

【小山委員】

- 成人のスポーツ実施率の増加について、兵庫県の行っているスポーツ推進計画が各市町にどれくらい浸透し、各市町が自分の市や町のスポーツ実施率を上げるために、どの様に取り組んでいるのか。

【川崎スポーツ振興課副課長】

- スポーツ推進計画については、41市町のうち現在25市町が策定しており、約61%の策定率である。また未策定の市町へは、市町担当者の集まる会において、国・県のスポーツ推進計画に基づいた、市町のスポーツ推進計画の作成をお願いしている。

【山口委員】

- 5年に1回、スポーツ意識調査、市民意識調査をやっているところもある。芦屋市は今度で4回目になり、5年おきに実施している。このようなデータに基づいて、年度初めの市町の担当者会議等で、紹介していただき、呼びかけていただければと思う。

【陳委員】

- 成人スポーツの運動実施者で、郡部では依然と低い状況にあるが、どれぐらい都市部と郡部で差があるのか。

【川崎スポーツ振興課副課長】

- 都市部の実施数では、通勤のために駅まで歩くや家の掃除、犬の散歩なども含めてカウントしている。そのあたりで郡部と少し差が出ると認識している。

[3 競技力レベルの向上について]

【小林委員】

- 競技者の目標は、シニアでトップになることだが、そのためにジュニアの育成にどの競技団体も力を入れていると思う。ただ、ジュニアの中には、間違っただ食知識を持っているものもいるので、食やサプリメントとドーピングについて、各団体で教育すれば、いいジュニア時期を過ごせるのではと考える。

【長島スポーツ振興課長】

- 県としては、ドーピングに関する研修会を実施しているが、競技団体には、特に試合が近づいてきたら、その都度確認をとっていただきたい。ドーピングの規定が変わり、今年はだめだということもある。

【鶴木委員】

- 競技力向上には、競技団体が大きな役割を担っている。県と各競技団体とは、どの程度連携できているのか。各競技団体との間で、事業の趣旨や方法等を共有できているのか。またそういうことについて話し合う場はあるのか。

【長島スポーツ振興課長】

- 県体育協会主催の会に、競技団体が集まり、事業内容等について議論されている。しかし各競技団体が全て満足されているかはわからない。

【住本兵庫県体育協会事務局長】

- 体育協会としても、ドーピングや栄養などを含め、年に数回研修会を開催し、各競技団体に最新の情報を提供している。それは監督であったり指導者、また選手にも直接最新の情報を提供する機会を持っている。その中で、各競技団体により、事情があるので、それぞれ個別で柔軟に対応していきたいと考えている。ただ、いろいろな面での意識改革が、指導者、選手も含めて必要かなという認識は持っている。

【石角委員】

- 学校における事故発生件数で、熱中症は何件ぐらいあったのか。

【川崎スポーツ振興課副課長】

- 熱中症は小中高等学校で 28 年度は 155 件で、27 年度よりも 20 件増えている。

【石角委員】

- 熱中症に対して、柔道に関わらず、ほかの競技でも熱中症で命を落としている若い学生さんがいらっしゃる。体調に温度や湿度がすごく影響する。屋内競技であれば、エアコンの設置や屋外競技であれば、早朝練習や夕方、日が落ちて涼しくなってから練習などの啓発活動を促していただきたい。

【升川体育保健課長】

- 熱中症については、「いきいき運動部活動」というリーフレットで、5月から

の注意の必要性や事前の水分補給等、文書で注意喚起するとともに、乾湿温度計を全県内の高等学校に配付し、適切な状況を把握した上での、運動部活動の安全実施をしているところである。ただ柔道場にエアコン、空調装置をつけるのは、現状では難しい状況にあるが、ご意見にあったような時間を考慮しながら適切に活動することについては、我々も留意しながら啓発していきたい。

[4 障害のある人のスポーツ参加者の増加について]

[5 手軽に参加できるスポーツ環境の整備について]

【増田委員】

- スポーツ庁は、地域総合型スポーツクラブにおいて、障害者スポーツの推進を図ることを言われるが、なかなか兵庫県の場合は、クラブが多いため、現実的に難しいと聞く。しかしある自治体では、スポーツクラブ 21 のマネージャーが、障害者スポーツの資格取得のための研修を受けるシステムがある。県としても何か仕掛けをしていかないといけないのではと考える。

【長島スポーツ振興課長】

- 障害者スポーツの推進を図る中で、障害者スポーツに対する意識が個々のクラブによって異なります。元々、スポーツクラブの発祥がスポーツ少年団や自治会・老人会であります。そのようなことから、研修会等を通じて意識改革に努めて参ります。

【羽原障害者支援課長】

- 教育委員会で行っているスポーツクラブの種目調査を見ると、グランドゴルフが最も多く、障害者スポーツにおいても、やはりグランドゴルフが一番多い種目となっています。障害者スポーツとの連携に取り組むスポーツクラブ 21 ひょうごの数値が低いところですが、全人口の中で障害者手帳をお持ちの方が 6% いらっしゃいます。その中に、知的障害とか精神障害の方が半分いらっしゃいます。イメージとして、車いすテニスとか車いすバスケットが障害者スポーツとして捉えられており、アンケートでは知的・精神障害者の実情をつかみにくく、数値に反映されていない実態がある。

【山口委員】

- 増田さんがリーダーをされている兵庫県障害者スポーツネットは、県内の障害者団体が集まっている。その協会が、県内各地に出かけ、いろんな出前プログラムを実践されている。県下の地域で行っている全県スポーツ交流会の中で、実践していただくとすごい影響力が大きいので、是非来年度は実施を検討していただければと考える。

11 閉会あいさつ 長島スポーツ振興課長

12 閉 会